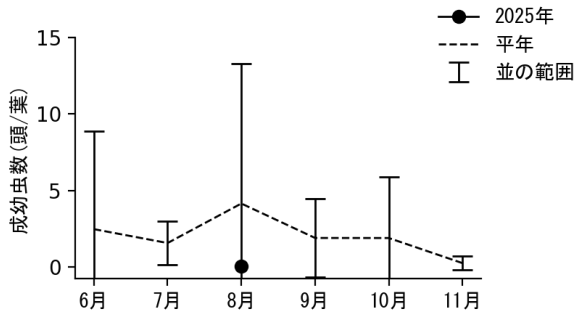
令和　7 年度　　9 月予報

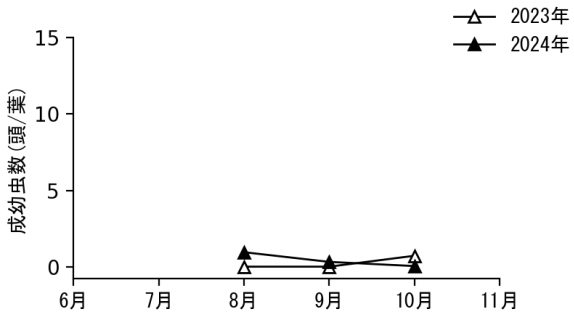
作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予　報	8 月からの増減傾向	↘		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

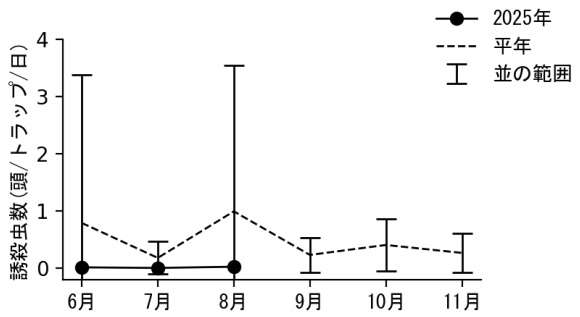
葉当たり成幼虫数の推移（今期と平年）



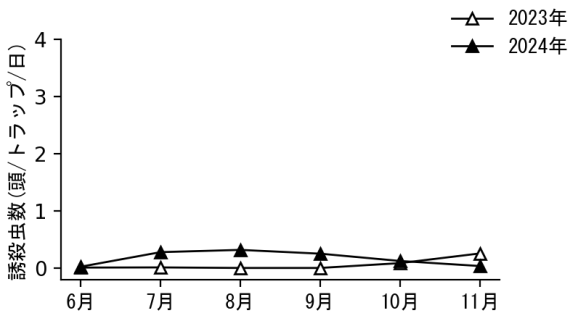
葉当たり成幼虫数の推移（過去２年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（今期と平年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（過去２年）



・発生施設率60.0%（平年：59.2%）

防除のポイント

・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
・収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ナガエコミカンソウ

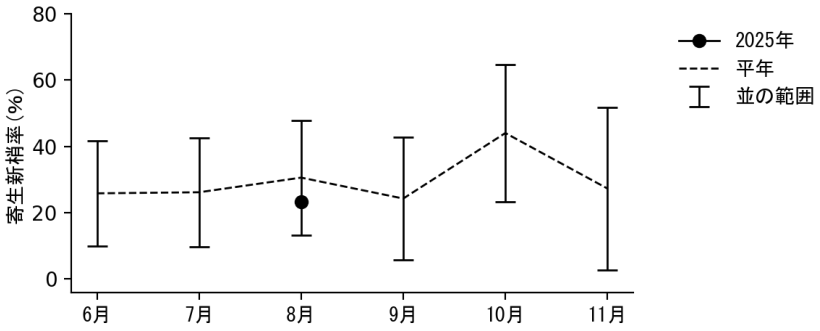
令和　7 年度　　9 月予報

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予報	8 月からの増減傾向	↘		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

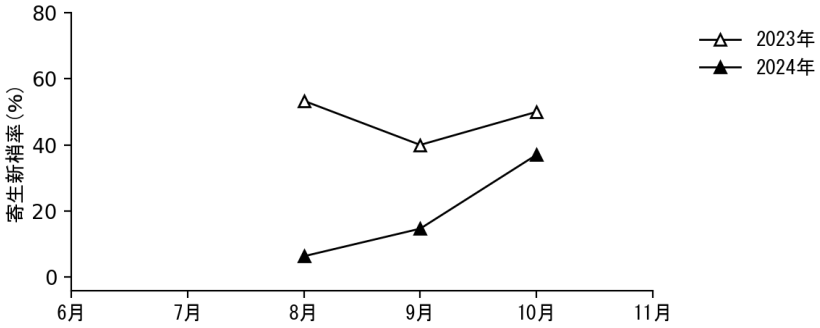
調査結果

寄生新梢率の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生施設率40.0%（平年：70.0%）

・一部施設で多発

防除のポイント

・産卵から羽化まで約２週間と繁殖スピードが速いことから、新葉をよく観察して、早期発見・防除に努める。また高密度に寄生された葉は落葉が早く、幼虫の脱出痕から炭疽病等に感染しやすくなることから、被害葉及び不要な新梢を除去し、施設外に持ち出し処

・高湿度条件で幼虫や蛹の生存率が高まることが知られているため施設内の湿度管理に留意する。

被害葉

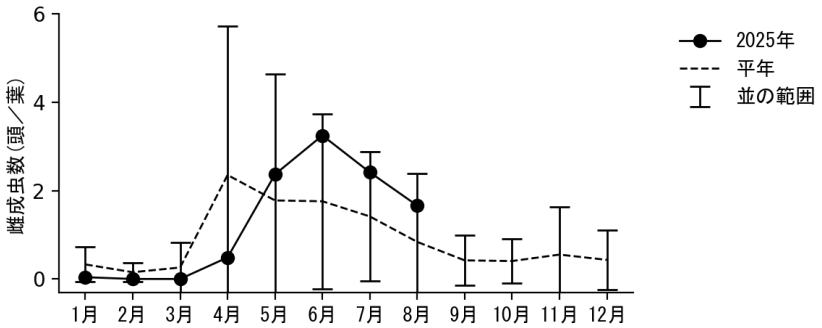
令和　7 年度　　9 月予報

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハダニ類	シュレイツメハダニ	
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	↘	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

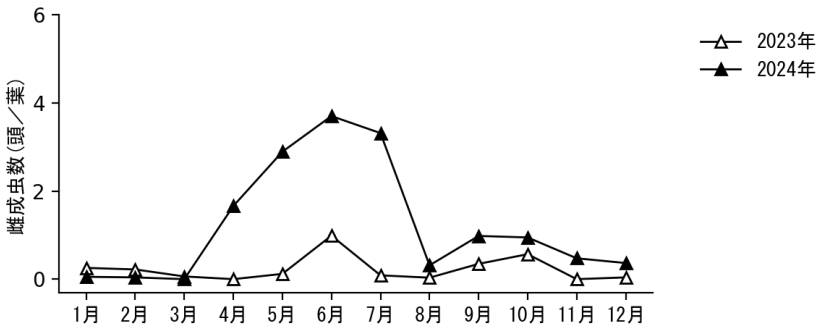
調査結果

雌成虫数の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ

・発生施設率60.0%（平年：34.7%）

防除のポイント

・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニの寄生による葉のかすれ症状

マンゴーツメハダニ